【消費者フォーラム in HIROSAKI】

教育学部学生の感想

今改訂の学習指導要領には、全体理念として「持続可能な社会の創り手の育成」が掲げられている。以下は、消費者フォーラム in HIROSAKI に参加した小学校の教師を目指す大学生の中高生の発表に対する感想の一部抜粋である。中高生による発表が、将来の小学校の教師を目指す大学生の消費者教育に対する認識を深め、次世代の子どもへの消費者教育の可能性を広げていたことが伺えた。

・中学生や高校生からフェアトレードや健康などに関する話も聴けたことで、消費を捉える視点がたくさんあることを感じた。フェアトレードのお話では、フェアトレード商品のチョコレートを選んで買うようにしていたり、フェアトレード商品を使った料理のメニューを考えていたりと、発表者の当事者意識と実際に行動しようとする努力が見られた。‥‥消費者、そして持続可能な社会をつくる当事者としてどのような視点を児童にもたせていくのかということについて自分の中で新たな問いが生まれた。
・発表していた生徒は授業で習った消費についての知識や SDGs についての知識を実生活に落とし込むことができていた。SDGs は国際的な目標であるため、伝え方によっては壮大過ぎて自分の力で変わるものではないと考えてしまう子どももいるだろうと思う。しかし、フォーラムで発表していた生徒や学生はそれを自分事として捉え、自分にできることを見つけて実践していた。このような行動につなげるために、教師にはどのような工夫ができるだろうか。
・高校生は問題意識をしっかりと持ち、一本筋の通った発表をしていて、素直に素晴らしいなと感動した。それと同時に驚いたことが一つあった。それは、２人とも問題解決の手段にスマートフォンアプリを活用していたことである。フォーラムの後、私も SDGs 関連のスマホアプリを調べてみたが、多種多様なアプリがたくさん出てきて、これらを眺めているだけでも消費者意識が向上した気がする。低学年への導入にこれらのアプリに触らせる授業をしてもいいだろうし、メルカリなどのフリマアプリも「つくる責任つかう責任」に関連して使い方について考える授業ができるだろう。

（加賀恵子　弘前大学教育学部）